

第167 市民文化講座

「論語とソロバン」

渋沢栄一翁の生き方に学ぶ

食品表示の偽証や欠陥商品の隠蔽など、企業における不祥事件があとをたちません。日々のテレビや新聞などで「またか！」と、うんざりするほどです。

このような経営者の無責任さを見るにつけ、明治時代に日本の近代経済を創始した渋沢栄一翁を思い起こします。

渋沢翁は生涯に500を上回る企業を創り育て、今日の論語の教えを基に「片手にはソロバンを、そして、もう一方の手には論語を」と、私欲を離れ正しい経済のあり方を実行し、教えてくれました。

さらに、晩年、75歳を過ぎて全部の企業から手を引き、今度は教育・文化と社会福祉事業に尽力し、600を超える団体を指導し、支援され、91歳の生涯を通されました。

少年時代は勤王の志士として活躍、運命のいたずらで、一転して徳川将軍慶喜の家臣となり、フランスに派遣され、帰国後、今度は明治政府の役人となり、さらに、将来を嘱望されながらも官を辞して民間で活躍するという、まさに波瀾万丈の人生を送りました。

この渋沢翁の一生を、論語とソロバンの思想、公正無私の人柄等について、下記のようにお話しを伺うことにしました。

講師は、今、注目を浴びておられる、島原そうめん拡売にご尽力中の素兵衛屋社長、永川幸樹先生です。先生は、もともと作家として多くの作品を表しておられますが、特に、現在活躍中の実業家の伝記を書かれ、たくさんの経営者とも会われて、対比しながら渋沢翁を語っていただきます。

ご多忙のことと存じますが、誘い合わせ、お繰り合わせてご来聴ください。

記

1 日時 3月18日(金)午後2時～3時半

2 場所 島原文化会館 小ホール B

3 演題 「論語とソロバン」
— 渋沢栄一翁の生き方に学ぶ

4 講師 永川幸樹先生



永川幸樹先生プロフィール

昭和 7年 有家町出身

昭和26年 島原高校昭和26年 第3回卒業

早稲田大学法学部卒業

新聞、雑誌記者等を経てノンフィクション作家。

政、財界、文化人との幅広い交流で有名。独自の取材力、人間観察に定評。

稲森和夫、中坊公平、堤義明ほかの評伝多数。

「日本文芸大賞ノンフィクション新人賞受賞」「日本文芸大賞ノンフィクション賞受賞」